(様式)府立松原高等学校 「学校運営協議会」報告書(第1回)

<table>
<tr><td>日 時</td><td colspan="4">令和6年７月13日(土) 14:30-16:30</td></tr>
<tr><td rowspan="11">出席者</td><td>運営協議会委員</td><td>職名等</td><td>学校事務局</td><td>校務分掌等</td></tr>
<tr><td>房本 晃</td><td>(福)バオバブ福祉会理事</td><td>麦田 伸一</td><td>校長</td></tr>
<tr><td>菊地 栄治</td><td>早稲田大学教授</td><td>塩見 純也</td><td>教頭</td></tr>
<tr><td>野﨑 龍介</td><td>松原市立松原第三中学校長</td><td>中川 泰輔</td><td>首席・3学年代表</td></tr>
<tr><td>坂井 啓祐</td><td>四天王寺大学教授</td><td>伊藤 あゆ</td><td>首席</td></tr>
<tr><td>森岡 次郎</td><td>大阪公立大学准教授</td><td>眞杉 凌</td><td>人権教育主担</td></tr>
<tr><td>永倉 あゆみ</td><td>本校PTA会長</td><td>佐藤 智美</td><td>人権教育主担</td></tr>
<tr><td></td><td></td><td>田ノ上 優光</td><td>人権教育主担</td></tr>
<tr><td colspan="4">教職員等</td></tr>
<tr><td colspan="4">岡垣 有香、明松空良、菊地 真祥、豊里咲夏、中野真希、山口裕子、
平野 智之(追手門学院大学教授)</td></tr>
<tr><td>テーマ</td><td colspan="4">対話による学校づくり「ルールメイキング」</td></tr>
<tr><td>協議内容の概略</td><td colspan="4">1. 学校長より
学校経営計画
2. 対話でルールメイキング①「松原高校で卒業までにつけたいチカラ」
生徒自治会執行部の生徒と、教職員、運営協議員で５つのグループに分かれて実施。
①生徒アンケートの結果紹介、「つけたいチカラ」は、いつ・どこで・何をしたら伸びるのか？
継続力・礼儀・優しくできる・コミュニケーション×授業・行事・LHR などでマッピング
②解決したい課題「寒さ対策の現状と課題」
3. 協議委員からのご意見、提言</td></tr>
<tr><td>提言内容・改善方策</td><td colspan="4">・ルールメイキングのような動きはあり続けてきたが、禁止項目が多い一方で、「こうしていこう」という議論がなかった。子どもたちと一緒に考えるときに、やればいい、ではなくとなりの子のことを考えていく、というように。
・何が大事かを根幹に置くこと。子どもを信頼することがない中で子どもを動かしたらつぶれる。それをひっくり返すのは、丁寧な議論。
・(身だしなみについて)地域でアンケートを取ると、マイナスの回答が出るはず。その、「みなされている」ということ、例えば、「スカートの下にジャージをはく子はダメな子」ということをどう考えて、どうしていくか。中身で勝負したらいいということと裏腹だが、得られるものと失うものの折り合いをどうつけるか。
・松高がなんのためにあって、そのためになぜ制服があるのか。行動力やコミュニケーション力といった、数値化できない非認知能力をどう伸ばすか。それは、個人に、ではなくて関係性の中で決まっていくもの。先生方にもあてはまる。
・自治会が一生懸命参加してくれて、自分たちがどうするかを考えていた姿に、大人のあざとさを感じた。例えば、就職のためにサークル活動をする、といったような、未来のために一つ一つの瞬間を毀損していることに加担しない発想を。また、「できる側」の目線で考えていないか気になった。
・もう一歩すすめる形を。単にジャージがいいか悪いかでなく、生徒の話を聞いて、なぜジャージがダメなのか？制服ではないから？なら、作ればいい、というふうに考える。
・どうあるべきか、という理念は生徒指導提要や子ども基本法で言われている。クラスづくり、人権学習からはじめなさい、と。また、子どもの自己決定についても。現行の制服ABCはトランスジェンダーの生徒も着やすい、ということが柱になっていた。今回も、ここまで議論したので企画していけばよ</td></tr>
</table>

	い。みんなが安心してはけるものをアパレルを回ってつくってしまう。地域の見た目にのみ拠っていてはいけない。 ・生徒の様子がよく分かった。生徒の話を聞きながらすすめていくことが大切。